

## 平成26年度米子市美術館協議会議事録概要

### 開 会 （13：30）

（岡課長）本日はお忙しい中、ご出席いただきまして有難うございます。委員の皆様には日頃から美術館の運営に関し、また、本市の文化行政に格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。平成25年8月に美術館はリニューアルオープンし、約1年半が経過しましたが、リニューアルオープン記念第1弾として、平成25年12月から翌1月にかけて「サントリー美術館コレクション展」、そして、第2弾として昨年4月から5月にかけて「第45回日展米子展」という大きな記念事業を開催しました。そういったものを始めとして、毎年恒例の「市展」や「秋の文化祭」の開催、さらには新たな試みとして音楽と美術展のコラボレーションにも挑戦するなどして、今年度は多くの皆様にご来館いただき、好評を得ており、今のところ順調な滑り出しとなっているのではないかと捉えています。そして、平成27年度は旧米子市と旧淀江町が合併して10年にあたる年ということで、新米子市誕生10周年記念という冠を付けて大きな企画展を開催する計画もございます。委員の皆様には、リニューアルオープン後にご来場されたり、ご使用されたりした際、お感じになったことや美術館の運営に関し、こうあってほしいといったご意見など色々あるかと思えます。また、本日は通常の議題のほか、「戸田海笛「喜怒哀楽の囃」レリーフの設置について」という議題もございます。これは市民有志からブロンズレリーフを市に寄贈し、美術館の敷地に設置したいという申し出を受けてのもので、美術館の今後の運営等にも関わる可能性があるため、本日の会議で委員の皆様方にお諮りしたいと考えています。忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、ご審議のほどよろしく願いいたします。

（長田会長）本日は大変お忙しい中、お集まりいただき有難うございます。今年度は例年より少し早めに召集させていただきました。淀江町との合併からまもなく10周年になるというのは、感慨深いものがありますが、その間に図書館・美術館の改修もありました。改修後の美術館がうまく使われてきたかを色々と検証し、次年度に展開していくことがこの会議の目的ですが、本日は他の議題もあるようですのでご審議のほどよろしく願いいたします。

それでは議事に入りますので、議題1の平成26年度米子市美術館事業報告について美術館から報告をお願いします。

(小川学芸員) (資料「平成26年度米子市美術館事業報告について」に沿って事業報告を行う。以下、補足)

・米子市美術館の主な事業は大きく分けて3つあります。1つ目は展覧会事業で美術館が主催または共催するものと市民の皆様に作品発表の場として利用していただく貸会場としての展覧会があります。2つ目は展覧会に付随する教育普及事業で、3つ目は博物館・美術館運営の根幹となる収蔵品の充実そして資料の収集・研究です。

・平成26年度の総入館者数は12月末時点で90,219人となっており、平成に入ってから初めの9万人台となります。開館してからは昭和62年の約9万9千人、昭和61年の約9万8千人に次ぐ3番目の記録となります。開館以来30年間では12月末時点で約214万人の来館者があったこととなります。

・今年度の県展の入館者は2,737人で、昨年度の3,077人と比べて減となっているが、会期中、台風19号の影響で一時閉館していたという経緯もあります。

・貸会場として、12月末時点で延べ51の展示、53団体にご利用いただいております。このうち31団体は秋の文化祭参加事業となります。リニューアルオープン後、非常に多くの団体にご利用いただいております。今年度は新規に7団体の利用がありました。その中でも「全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」の一環として開催された「アール・ブリュット展」が9月6日から28日までという長期間にわたって開催されました。

(長田会長) 説明のあった事業報告について委員の皆様のご意見をいただきたいと思っております

(大谷委員) これまでずっと思っていたことですが、資料を1週間くらい前にでも配ることはできないものですか？各委員が事前に資料に目を通して、意見なり質問なりを持ち寄って会を始めたほうがスムーズに会が進むと思っております。

(森田主幹) 資料の準備が遅れており申し訳ありません。来年からは事前に資料を送らせていただくこととします。

(高増委員) 昨年度のリニューアルオープンにあたって、新たな美術館のビジョンを示してはどうかという意見が出たと思っております。ビジョンや理念を言葉にしておいてから実際こういった主催事業をやりますという形のほうが分かりやすいと思っておりますが、その辺りをその後、検討されたかお聞きします。

(森田主幹) 美術館の理念とのことですが、美術館の設置目的として条例にあ

る「郷土にゆかりのある優れた作家の美術作品等及び近代以降の版画作品等の収集、保管、研究及び展示を行うこと」が一番大きな部分だと思います。

(岡課長) 補足ですが、条例にあることのほかに市民の皆様にもいろいろな美術作品を観ていただき、文化・芸術の振興を図っていくことも必要です。また、ハード面で言うと展示室や収蔵庫のスペースに限りがある中で、どのように郷土作家の作品の調査研究を進めていくかが求められている部分だと思いますが、もう少しお時間をいただき検討していきたいと思っています。

(大谷委員) 理念の話も資料の配布と同じで毎年出ていることです。

(長田会長) 美術館は寂れていく市の中心部に位置することもあり、特徴を出しやすい場所にあると思いますが、ここで地域創生の一番大事な意味を出せるのではないかと個人的には感じています。財団の指定管理ではありますが、市が予算措置をしていることでもあるので、協議会として理念を大事にしてほしいということをお願いしたいと思っています。

続きまして、議題2の平成27年度米子市美術館事業計画について美術館から説明をお願いします。

(今副館長) (資料「平成27年度米子市美術館事業計画について」に沿って事業計画を説明する。以下、補足)

- ・基本方針として、市民に親しまれる美術館を目指し、地域文化の創造に寄与することを目的として、事業計画を作成しました。
- ・重点施策としては、新米子市誕生10周年記念事業として、優れた作品を鑑賞する機会を提供することを目的に「安野光雅の世界展」「篠山紀信展 写真力」を計画しています。また、議題3のレリーフ受贈に合わせて「受贈記念戸田海笛展」も企画しています。
- ・「安野光雅の世界展」は、安野光雅美術館の全面的な協力を得て、各地で開催されている安野展としては過去最大規模の157点の作品を展覧する予定です。また、地元の方々のご協力を得て、加藤哲英先生による水彩画体験教室や市内の合唱サークルによる「歌の風景」ミニコンサート、図書館と児童文化センターの司書が行う絵本のおはなし会など幅広い世代の方々楽しんでいただける関連事業を多数企画しています。
- ・美術講演会に関しては、現在のところ、安野光雅美術館館長と篠山紀信氏による講演会を予定しています。
- ・モニター制度は第5期1年目となるため、新規モニターの募集を行います。

・アンケートは自主事業に対し随時実施し、ご来場された方々の声をもとに方針の変更や修正を行うこととしています。

(生田真委員) 他の美術館は紀要を出していますが、米子市美術館はいかがですか？

(先灘館長) 現在発行しておりません。同じ財団の山陰歴史館では昨年から発行しており、米子市美術館でも来年度以降発行できるよう準備を進めています。

(生田真委員) 期待しています。

(長田会長) 続きまして、議題3の戸田海笛「喜怒哀楽の囃」レリーフの設置について事務局から説明をお願いします。

(岡課長) 米子出身の彫刻家・戸田海笛は茨城に滞在した後、パリに行き、そこで亡くなる訳ですが、昨年安来市で展覧会が開催された著名な彫刻家・米原雲海の弟子にあたるということです。「喜怒哀楽の囃」は、戸田海笛が茨城県結城市に滞在した際、作成した高さ 1.8m、幅 7.6mという非常に大きな石膏のレリーフで、結城市に個人の方から寄贈され、結城市の小学校の講堂に飾られていましたが、その講堂が取り壊されるに伴い、取り外されて結城市の中央公民館に移され、現在まで何十年も保管されています。そういった状況の中で、米子市の有志の方々が戸田海笛「喜怒哀楽の囃」帰郷100人委員会というものを立ち上げられ、現在、所有権がある結城市から100人委員会が石膏レリーフの譲渡を受けて、現在かなり痛んでいる状態の石膏レリーフを修復したものを型にしてブロンズ鋳造を行った後、完成したブロンズレリーフを米子市に寄贈し、多くの市民の目に触れるよう美術館の屋外の敷地に設置したいという事業計画を提出されました。100人委員会はレリーフの譲渡を受けた後、作品をどういった形で設置するかを結城市から問われており、結城市に事業計画を示す必要があります。そのため、ブロンズ鋳造したレリーフを米子市が100人委員会から寄贈を受けるということであれば、その旨を米子市が100人委員会に回答し、100人委員会からその旨が結城市に伝えられることで、結城市としては最終的にブロンズレリーフが米子市に寄贈されるという理解をされ、譲渡の手続きが進むこととなります。通常、作品の寄贈を受けるかどうかを検討する際には完成品を対象としますが、現在はまだブロンズ作品は出来上がっていないため、出来上がりを予測しながら作品を受けるかどうかを検討している段階です。美術館の敷地に設置するとなると美術館の運営にも関わることで

すので、協議会の委員の皆様にも現段階でお諮りするものです。

戸田海笛は、生まれてから21歳くらいまで米子で過ごし、その後、結城市に滞在した後、パリに渡り、鯉の絵などを得意とする画家としてまた彫刻家として有名になりつつあったが、43歳という若さでパリで客死されました。米子でも加茂小学校に作品があるほか、以前に戸田海笛展を開催した米子市美術館にも収蔵品があります。こういった米子市との縁があるうえに、100人委員会としては、大作のレリーフを米子に持ち帰り、美術館の敷地に設置して、広く市民に公開することで美術館の集客等にも貢献しようという考えで、石膏レリーフの修復、ブロンズの鋳造、運搬及び設置にかかる経費に充てるための募金活動を行い、金額も多額となったため、事業を行う目途がついたと伺っております。

「戸田海笛作レリーフ「喜怒哀楽の図」の米子市寄贈に係る事業計画について」という資料の3実施内容に「設置場所等についての承諾書類が整いしだい」とあるのは、米子市としてはブロンズ作品が完成した暁には寄贈を受けますという承諾を出した段階で、100人委員会が石膏レリーフの譲渡を結城市から受けられ、美術の専門業者に運ばれ作業に入られることとなります。「設置については安全面や意匠等に十分配慮したものとし、美術館の建物や工作物の破損、劣化等に影響を与えない工法を選択」することとし、「石膏レリーフについては、他所での収蔵、保管等を検討」されています。今後のスケジュールとしては、2月から3月頃に結城市から譲渡を受けられて、その後作業に入り、早ければ今年の9月から10月頃にブロンズレリーフが完成する予定と伺っています。事業収支については、資料の5事業収支予算にあるように経費が全体で約1200万という計画です。参考資料として添付していますが、計画の中でブロンズレリーフの設置場所として提案されているのは、美術館の正面右側の外壁の辺りですが、展覧会の案内看板を設置する場所でもあり、それに干渉しないよう少し高めの位置に設置してはどうかという提案を受けております。設置場所に関しては、壁面に取り付けるのか、ずらして地面に設置するのか現場等も確認しながらこれから具体的に検討していくことになるかと思いますが、計画通りにブロンズレリーフが完成したときには米子市としては寄贈を受ける方向で考えています。以上のような美術館敷地へのブロンズレリーフの設置計画について、この協議会にお諮りし、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

(長田会長) 説明の補足ですが、戸田海笛という人物については越河先生の「戸田海笛」という本に詳しく書かれています。「喜怒哀楽の図」レリーフについては、実物を見ないとよくわからないと思い、私は何度か実物を見に足を運び、ビデオにも収めてきました。100人委員会も団体で実物を見に行かれ、この

作品は絶対に持ち帰らねばならないとの思いを持たれたとのこと。戸田海笛は鯉の絵など多くの絵も描いており、これほどの生命力を現せる人は他にいないといった人もあるように画家としても高い評価を受けています。掛け軸などの作品が市内にあるほか、加茂小学校には彫刻が玄関に置いてあるなど、パリに渡る前に多くの作品を制作しています。昨年、米原雲海彫刻展が開催された際、富山大学の先生が来られて、雲海と海笛を含む弟子達の作品を高く評価されました。パリに渡る前に何故巨大な壁画レリーフを作成したかは解明されていませんが、当時パリの日本大使館の玄関に壁画を設置するという話が持ち上がったことがあり、それを察して作成したのではないかと推測されます。この作品には数々の逸話があり、帝展に出そうとしたがあまりに大きすぎて断られたとか、ある新聞社が玄関に飾りたいと申し出たとき、億の値段がついていたなどの話もあります。現在、公民館に保管されている石膏レリーフは大変痛んでおり、費用が比較的安価な富山の黒谷美術に運んで修復し、ブロンズ鑄造して米子に持ち帰る計画で、全体の経費は現在1千名を越える寄附者から集まっている1,200万で収まる予定です。100人委員会が結城市から石膏レリーフの寄贈を受けて、ブロンズ鑄造したものを米子市に寄贈するという全体の道筋が見えてきたので、あとは美術館の敷地にどのように設置するか設計業者にも相談しているところですが、壁面に取り付けるか足をつけるかなどの問題も含めて皆さんのご意見を伺いたいと思います。

(高増委員) 以前から100人委員会の活動は少し耳にしていましたが、戸田海笛の作品の素晴らしさもさることながら、これだけの寄附を集められたことにも驚いています。費用は寄附金で賄えるとのことですが、建築の立場から気になる点は、壁画作品ということでスペースが空いている美術館の外壁に取り付けると美術館の来館者の目に入り易いのはいいことで、構造的にも安全面への配慮がなされ、壁に穴を開けて設置するようなので漏水等が起こらないよう十分配慮がなされるのであればいいのではないかと思います。図面とイメージ写真で位置が若干ずれており、今後詰めていく中で調整されると思いますが、図面のほうが壁の真ん中に位置しており、しっくりくると思います。ただし、左側に立て看板が並ぶので、高さ的に看板にかからないように設置すれば問題ないかと思います。

(生田眞委員) 100人委員会でここまでされたことに敬意を表します。最初から携わっておられる方々の情熱が計画をここまで推し進め、今日このような提言を行うに至ったのであり、設置する位置については調整が必要だが、せっかくのチャンスであり今後も計画を進めていくべきだと思います。

(奥田委員) 素晴らしいです。実現できたら宝物になると思うので計画をきちんと進めていただきたいと思います。

(安藤委員) 100人委員会の活動は部外者として拝見していましたが、ぜひ設置できればと思います。

(吉野委員) 初めてお聞きしましたが、加茂小学校に作品があるとのことで米子にゆかりのある方だというのはわかりました。

(生田利秋委員) 場所的には非常にいいと思いますが、建物と金属では材質が違うので建物が傷まないような方法で行うべきだと思います。本当は看板式が建物にはいいと思いますが、壁画ということもあるので、建物と作品の両方とも痛まない方法をしっかり検討してほしいと思います。

(長田会長) 設置方法は建築士に設計を依頼していますが、外壁に設置するにあたり重量計算をして、レリーフ裏面の枠に取り付けるボルトの数を決めると聞いています。たて看板式にする話もあったようですが、地面に配管があるなどの問題もあるようです。

(岡課長) 補足しますと、外壁に下地を作って、そこにアンカー（ボルト）を20本打ってレリーフを掛ける形でいくとアンカー自体は重量的に耐えうるという計算が出ていますが、まだアンカーの素材が鉄なのかステンレスなのか、防錆加工はどうするかといったことが決まっておらず、壁自体の耐力も確認されていないので、壁の損傷等がないように工法等を検討していきたいと考えています。

(柴野委員) この計画が実現したら非常に喜ばしいことだと思います。ただし、結城市から富山に石膏レリーフを輸送されるとのことですが、作品の状態がかなり悪いと聞いており、輸送して大丈夫なのかが心配です。

(長田会長) 輸送は専門の業者に依頼することになりますが、輸送は大丈夫だと聞いています。ただし、石膏本体は毎年大金をかけて手入れをする必要があるため、ブロンズ鑄造を考えたものです。石膏本体の保管場所は今後検討していくこととなります。

(藤山委員) イメージ写真を見ると展覧会のたて看板のこともありますが、レリーフの位置が少し高いかと思います。見上げるというのは見ずらいのもう少し低い位置で設置できればと思います。それと石膏本体は米子に持ち帰ってどこに保管する予定ですか？

(長田会長) 石膏本体の保管場所は、JRの南北通路などいろいろな話が出ていますが、現在、100人委員会で検討中です。

(岡課長) レリーフを設置する高さについては、設置方法等も含めてこれから詰めていくことになります。

(高増委員) 設置後のブロンズにはウレタンを塗装するとのことで、おそらく持ちを良くするためだと思いますが、ブロンズは緑青が出てきて色が変わっていくイメージを持っています。その辺りの具合を教えてくださいと思います。

(岡課長) 計画は現段階の案で着色するなら何色にするかとか着色しないとかの選択肢について、全体のデザインも含めてこれから調整していくことになるかと考えています。

(大谷委員) 元の作品が石膏に着色したレリーフなので、着色するのは持ちを良くするためではなく作品を元の状態に戻すということではないかと思います。

(今副館長) ブロンズに着色することに関しては意見が分かれるところですが、原型のイメージを損なわないようにするか修復した状態で判断するかなど設置主体の方針で色が決まるようです。方法もウレタン着色や焼付けによる着色などいろいろな技術があります。

(長田会長) それでは高さなどの設置位置や設置方法などについては今後も検討するとして美術館の正面にブロンズレリーフを設置するという100人委員会の事業計画に賛成いただける方は挙手をお願いします。

賛成多数 (ほぼ満場一致)

(大谷委員) 質問があります。少し前に新聞で作品が米子に帰るという記事を見たような気がしますが、米子市はこの計画をすでに承諾しておられますか？



（岡課長）美術館協議会にお諮りし、判断したいと考えています。最終的な結論は実際に作品が出来上がってからになりますが、方向性が決まらなると話が進まないため、賛同いただければ話を進めていきたいと考えています。

（長田会長）そうしますと賛成多数でしたので100人委員会の事業計画は美術館協議会の賛同を得たということで話を進めていきたいと思ひます。

（岡課長）美術館協議会の意向としてはブロンズレリーフの寄贈を受ける方向で差し支えないとのことですので、建物に対する影響や設置位置、色を含めたデザインなど今日いただいた色々なご意見については今後詳細を詰めていくとして、米子市としてもお受けする方向で話を進めていきたいと思ひます。

（長田会長）他に何もないうですので、これを持ちまして美術館協議会を終了したいと思ひます。お疲れ様でした。

閉 会 （15：13）